

DX Criteriaレポート 第二回

2021/04 CTOA レポートWG



1. はじめに
2. 調査対象
3. サマリ
4. 集計結果
5. Appendix

1. はじめに	P5	カテゴリごとのランキング	P20
VISION AND MESSAGE	P6	各項目ごとの達成率が特に高かった項目	P21
DX Criteriaの目的 = 超高速な事業仮説検証能力を得ること	P7	各項目ごとの達成率が特に低かった項目	P22
		評価項目ごとの達成率の平均値	P23
2. 調査対象	P8	評価項目ごとの達成率の中央値	P24
今回の調査について	P9	評価項目ごとのテーマ別平均と達成率	P25
調査対象企業概要 (1)	P10	評価項目ごとのテーマ別中央値と達成率	P26
調査対象企業概要 (2)	P11	テーマ合計点ごとの箱ひげチャート	P27
調査対象企業概要 (3)	P12	チームの各カテゴリの平均	P28
		チームの各カテゴリの平均 (箱ひげ図)	P29
3. サマリ	P13	チームの各カテゴリの分布	P30
総得点の平均	P14	システムの各カテゴリの平均	P31
テーマごとの集計	P15	システムの各カテゴリの平均 (箱ひげ図)	P32
集計結果サマリー	P16	システムの各カテゴリの分布	P33
		データ駆動の各カテゴリの平均	P34
		データ駆動の各カテゴリの平均 (箱ひげ図)	P35
4. 集計結果	P17	データ駆動の各カテゴリの分布	P36
各テーマの分布	P18		
Appendix: 正規性の検証	P19		

デザインの各カテゴリの平均	P37
デザインの各カテゴリの平均 (箱ひげ図)	P38
デザインの各カテゴリの分布	P39
コーポレートの各カテゴリの平均	P40
コーポレートの各カテゴリの平均 (箱ひげ図)	P41
コーポレートの各カテゴリの分布	P42
	P43
5. Appendix	
企業規模ごとのとテーマ別平均	P44
内製化比率ごとのテーマ別平均	P45
業界別カテゴリ平均	P46
年間売上規模ごとのテーマ別平均	P47
DX Criteria 実施事例	P48
調査方法等	P49
皆様へのお願い	P50

1. はじめに

VISION AND MESSAGE

デジタル時代の超高速な仮説検証能力 を得るには「2つのDX」が必要不可欠



日本CTO協会では「DX」という言葉を2つの意味で捉えています。

一つは、企業がどれだけ経営に対してデジタル技術を用いたビジネス変革ができているかを表す**企業のデジタル化 (Digital Transformation)**です。

もう一つは先端開発者にとっての働きやすい環境と高速な開発を実現するための文化・組織・システムが実現されているかを意味する**開発者体験 (Developer eXperience)**です。

これらの2つは、経営にとって**ヒト・モノ・カネ**が一体であるように、一体で実現されるものです。デジタル技術は目に見えないため、しばしばわかりやすいものにだけ投資して見えない品質をおろそかにしてしまいます。そのため、開発者体験は悪化し、企業のデジタル化を阻害してしまうことがあるのです。

私たちは、「2つのDX」を一体で捉えた基準をつくり、その普及をしていきたいと考えています。



DX Criteriaの目的 = 超高速な事業仮説検証能力を得ること

Point 1

組織文化と「見えない」投資

高速な開発を行う組織には一度体験しないと価値がわかりにくい投資や習慣があります。この説明コストの高さを軽減し、導入を促します。

Point 2

タスク型ダイバーシティ

事業価値あるサービスが実現するためには様々なデジタル人材と既存事業人材の相互理解と共創関係が必要で、この進展を促します。

Point 3

メリハリのあるIT戦略

標準化・コモディティ化した領域については外部サービスを利用し、競争領域に特化して内製化をすすめるためのメリハリのある投資を促します。

Point 4

組織学習とアンラーニング

新しいツールや潮流に挑戦するための組織学習と、時代が変わってしまった習慣のアンラーニング(学びほぐし)を促します。

Point 5

自己診断と市場比較

関連するレポートと自己診断によって競合状況との差を認識しやすくし、自社の強み弱みを理解して段階的に変化できるように促します。

2. 調査対象

◀◁ 今回の調査について

第1回平均点レポート調査にご協力いただいた14社と、今回新たに調査にご協力いただいた企業23社、合わせて37社の平均を共有いたします。

調査対象：

37社

調査データの活用について

この調査は母数も少なく統計的に信頼できるなにかとしてのものではありません。

デジタルネイティブな企業かつ、このような取り組みに対して先進的な企業がどのぐらいのレベルにあるのかを理解し、自社のアセスメントを解釈する際の一助となればと考えております。

今後は企業の規模や業態に特化したレポートを継続して出していく予定です。

調査対象企業概要 (1)

第1回平均点レポート調査にご協力いただいた14社の企業概要です。

- HRTech 上場企業
- ECなど 上場企業
- 動画メディア 非上場
- 先端技術開発企業 非上場
- インターネット総合 上場企業
- 求人メディア 非上場
- B2B, B2Cサービス事業者 上場企業
- EC等 上場企業子会社
- OMO 非上場
- インターネット総合 非上場
- EC等 上場企業
- クラウドファンディング 非上場
- B2B SaaS 上場企業
- 求人メディア運営 非上場

計 14社

◀◁ 調査対象企業概要 (2)

第2回平均点レポート調査にご協力いただいた23社の企業概要です。

- ・ 情報通信業 非上場 7社
- ・ 情報通信業 上場企業 5社
- ・ 金融業/保険業 非上場 3社
- ・ 金融業/保険業 上場企業 1社
- ・ 学術研究、専門・技術サービス業 上場企業 1社
- ・ 学術研究、専門・技術サービス業 非上場 1社
- ・ 教育学習支援業 非上場 2社
- ・ 卸売業/小売業 非上場 1社
- ・ 生活関連サービス業、娯楽業 非上場 1社
- ・ その他・分類不能な産業 非上場 1社

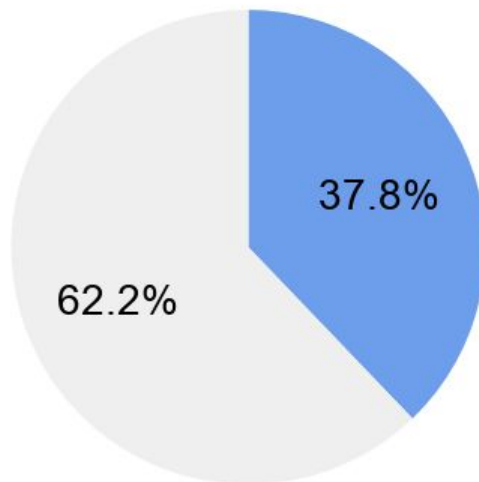
計 23社

調査対象企業概要 (3)

調査対象企業37社の上場状況の集計です。

上場状況

- 上場企業
- 非上場企業



3. サマリ

総得点の平均

デジタル事業を展開している企業37社の平均値としては、おおよそ半分の達成。

平均

165.8 /320

達成率

51.8%

あくまで参考ですが、所属企業の達成率が50%程度であるならば、「企業のデジタル化」及び「開発者体験」2つのDXにおいて、**競争力のある状態**にある

テーマごとの集計

デジタル企業はコーポレートの達成率が高く、データ駆動の達成率がまだ低い。

テーマ	カテゴリ平均	達成率	偏差
チーム	36.3	56.7%	8.54
システム	33.6	52.4%	9.93
データ駆動	28.0	43.8%	11.14
デザイン思考	29.7	46.4%	10.39
コーポレート	38.3	59.8%	8.55



チーム

システムに関わるチームがどれだけ生産的に高速な仮説検証や開発を行うことができる状態にあるかをチェックする。



システム

システム自体がレガシー化されずにどれだけ安全かつ高速に改善できる状態にあるかをチェックする。



データ駆動

社内外のデータがどれだけ活用しやすい状態にあるか、また経営や意思決定に活用されているかをチェックする。



デザイン思考

デザインとUXから事業価値を生み出すために必要な仮説設定能力や習慣、効率的に行うための組織についてチェックする。

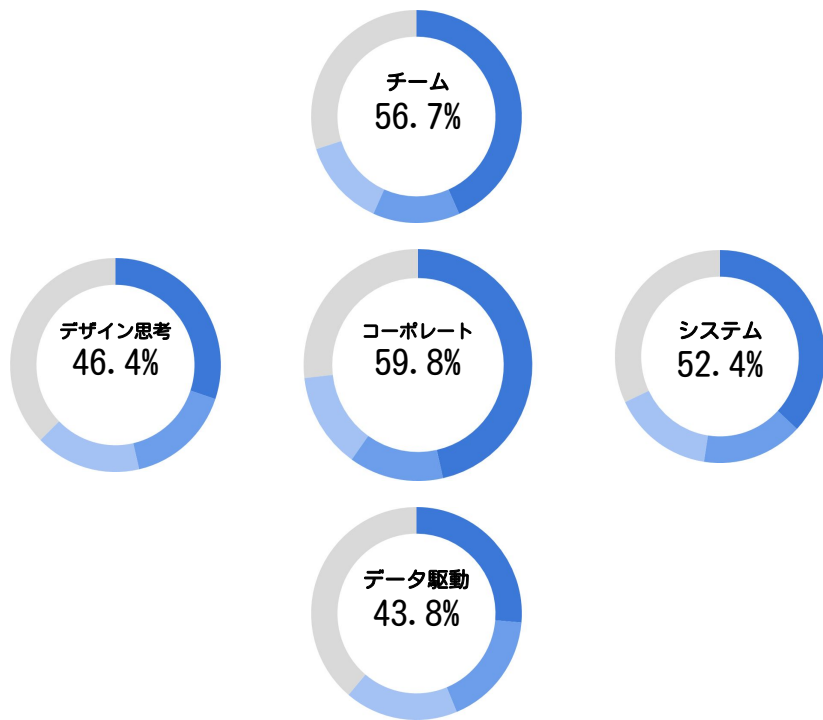


コーポレート

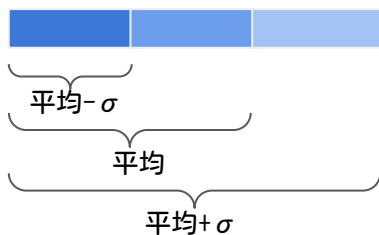
経営やミドルオフィス・バックオフィス機能がどれだけデジタル戦略を意識した活動ができているかをチェックする。

集計結果サマリ

テーマごとの平均と偏差をまとめると以下のようなになる。



テーマ	カテゴリ 平均	達成率	偏差	- σ	平均	+ σ
チーム	36.3	56.7%	8.54	27.7	36.3	44.8
システム	33.6	52.4%	9.93	23.6	33.6	43.5
データ駆動	28.0	43.8%	11.14	16.9	28.0	39.1
デザイン思考	29.7	46.4%	10.39	19.3	29.7	40.1
コーポレート	38.3	59.8%	8.55	29.7	38.3	46.8



σ = 偏差